

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人吉野辰雄の上告趣意（後記）は、憲法違反を主張する所論もあるが、その実質は量刑不当の主張に帰し（憲法三六条残虐の刑罰の意義については、昭和二二年（れ）第三二三号同二三年六月二三日大法廷判決参照）。結局すべて刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。また記録を精査しても同四一一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一四条三八六条一項三号により主文のとおり決定する。

この決定は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二六年七月二〇日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	栗	山	茂
裁判官	小	谷	勝 重
裁判官	藤	田	八 郎
裁判官	谷	村	唯 一 郎